



Joint Graduate School of Mathematics for Innovation

マス・フォア・イノベーション関係学府



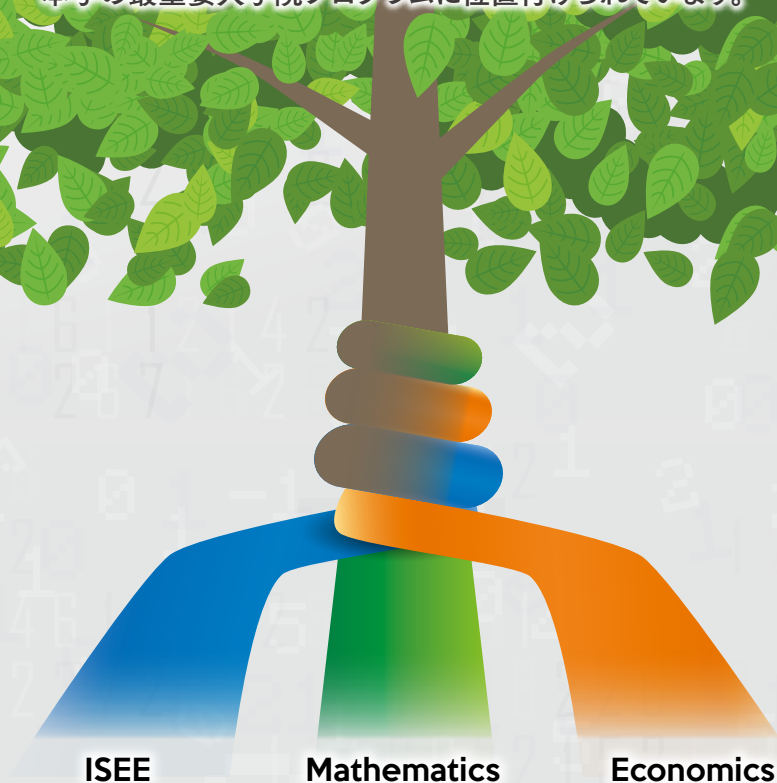
数学×共創 創発

数学モデリングで 共創・創発する プロフェッショナルの育成

データサイエンスやAIの需要が急上昇している世界で必要とされるのは、
様々な諸科学分野や実社会に潜む課題の発見・解決において、
数学を学術基盤としつつも、学問の境界領域を超えて共創し、
自由な発想と理解力でイノベーションを創発できるプロフェッショナル人材です。

本学府は、連携協力学府である数理学府、システム情報科学府、経済学府が連携・協力し、
さらに多様な専門領域の教員が参画することにより、
異分野と共創しながら教育・研究を実施する新しい形の学府であり、
数学力・統計力を基盤として構築した数学モデリングをもとに
幅広い分野で花開く卓越した数学博士人材を育成します。

本学府は、九州大学が独自に構築した5年一貫の文理横断型プログラムである
「ダ・ヴィンチプログラム」の枠組みのもと、
研究科等連携課程実施基本組織として設置した初めての学府であり、
本学の最重要大学院プログラムに位置付けられています。





マス・フォア・イノベーション 連 係 学 府

Joint Graduate School of Mathematics for Innovation

学府長からのメッセージ

「マス・フォア・イノベーション連係学府（JGMI）」とは、文部科学省の「卓越大学院プログラム」に2020年度に採択された学位プログラムの一つです。1年半の準備期間を経て2022年4月に数理学府、システム情報科学府、経済学府が連携して開設されました。JGMIでは「数学力」「統計力」「モデリング力」「共創力」「創発力」をキーワードとして、数学と様々な分野を結びつける教育と研究を行なっています。

日本学術振興会のHPによれば「卓越大学院プログラム」は、各大学が自らの強みを核に、国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的に連携しつつ、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築することを目的とした事業です。卓越した博士人材を育成するとともに、人材交流及び新たな共同研究の創出が持続的に展開される拠点形成を目指します。本事業は2018年度から開始され2020年度までに140件の申請の中から30件のプログラムが採択されました。

JGMIでは、(1) 高度で柔軟な国際的に優れた「数学力」、(2) データの集計・分析・可視化・マスター化などに必須な「統計力」、(3) 複雑な課題から数学モデルを構築する「モデリング力」、(4) 他分野の研究者と共同で創造する「共創力」、(5) これらを統合しイノベーションを創発する「創発力」の5つの力を備えた人材の育成を目指しています。

各学府博士課程の学生は、各自の専門分野について深い知識を学び、研究を行い、結果を論文や口頭発表で公表し、自立した研究者としての基盤を築きます。JGMIではそれに加えて、専門分野を超えた様々な領域で活躍できる力を身につけることを目指します。それが「数学力」「統計力」「モデリング力」「共創力」「創発力」です。JGMIの学生がそれぞれの強固な学問的基盤のもとで、問題の本質を見抜いてモデルを構築し、数学力と統計力を活かし、境界の垣根を越えて社会の様々な分野で活躍することを心より期待しています。



学府長

廣島 文生

HIROSHIMA Fumio

学位：博士（理学）

専門分野：場の量子論



マス・フォア・イノベーション
卓越大学院
Graduate Program of Mathematics for Innovation

**マス・フォア・イノベーション連係学府は、
文部科学省「卓越大学院プログラム」(令和2(2020)年度採択)
「マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム」を実施しています。**

マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム

本学府が実施する「マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム」は、文部科学省「卓越大学院プログラム」事業に令和2年度に採択されたプログラムです。本プログラムは、国際的に優れた数学力及び統計力を基盤として、組織や分野の垣根を越え、数学モデリング力を活かして各分野で共創し、イノベーションを創発する卓越した数学博士人材を育成することを目的としています。

本プログラムの目的

本プログラムが掲げる最も大きな目的は以下の2つです。

- 1) 世界に誇れる修士・博士一貫の文理横断型学位プログラムとして構築・発展させることで、本学のみならず我が国の大学院改革を推進・先導します。
- 2) 我が国における産業数学の潜在力を引き出すとともに、他分野と共創できる数学博士人材の質・量の充実に資するプログラムとすることで、世界の社会や産業の発展・牽引に貢献します。

卓越大学院プログラム(令和2年度採択) 中間評価で最高評価『S』を取得

「卓越大学院プログラム」(令和2年度採択)について、独立行政法人日本学術振興会に事務局を置く卓越大学院プログラム委員会において、中間評価結果が決定され、本プログラムが最高評価の『S』を取得しました。

「卓越大学院プログラム」(令和2年度採択) 評価結果が公表された4つのプログラムにおいて、S評価を取得したのは、九州大学のみとなっています。

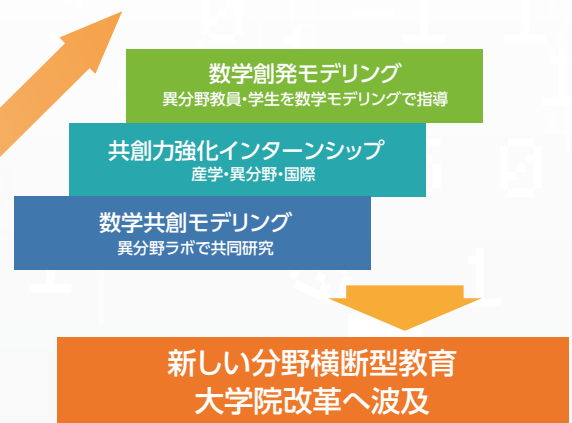
What the Joint Graduate School Aims for 連係学府が目指すもの

本学府では、主として数理学、システム情報科学、経済学を学ぶ学生の中から優れた数学的資質と他分野との共創に意欲を持つ学生を選抜し、基盤となる学問分野の学びを発展させながら、次の5つの力「マス・ファイブ・フォース(MFF)」を備えた数学モデリング人材「マス・フォア・イノベーション プロフェッショナル」を育成します。



マス・フォア・イノベーション プロフェッショナル

国際的に優れた数学力・統計力を知識基盤に、数学モデリングを構築し組織や分野の垣根を越えて各分野で共創して大学でも企業でもイノベーションを創発する
卓越した数学モデリング人材



Characteristic Activities 特徴ある活動

■ マス・フォア・イノベーションカフェ

数学力や共創力の向上を目的として、ヤングメンターと本学府生5~10人とのカジュアルな交流会を定期的実施しています。また担当教員とは話しにくい内容の悩み事を抱えている学生が、より年齢や立場の近いヤングメンターに相談する機会にもなっています。加えて複数のヤングメンターと共同開催する回や、企業等からゲストを招く回もあり、学生にとって気軽な異分野・国際交流ができる場になっています。

■ スタディグループ

社会や産業におけるさまざまな現実的問題に対して、数学研究者が協働で取り組む産学連携シーズ発掘に極めて有効な短期集中の問題解決型研究合宿です。プログラム担当者と全学年の学生に加え、企業や異分野の研究者、および学部生や他大学からの参加も得て年に1回程度実施しています。



マス・フォア・イノベーションカフェの様子



スタディグループの様子

Curriculum and Distinctive Subjects

カリキュラムと特色ある科目

マス・ファブ・フォース
(MFF)

マス・ファイブ・フォース
(MFF)

⑤ 創発力

④ 共創力

③ モデリング力(実践)

③ モデリング力(基礎)

② 統計力

① 数学力

マルチメンター制による研究指導

M1

M2

D1

D2

D3

学位審査・修士号取得
博士前期課程修了要件30単位以上

学位審査・博士号取得
博士後期課程修了要件16単位以上

●卓越基礎講究(修士論文指導)[10単位]

●卓越講究(博士論文指導)[8単位]

●数学創発モデリング[2単位]

▶他分野の研究室で共同研究

▶リバースメンター

●卓越論報[2単位]

●数学共創モデリング[4単位]

▶他分野の研究室で学ぶ

▶共同研究等

●共創力強化インターンシップ[4単位:1科目選択]

国際/異分野/産学

●基礎科目[4単位]

●トランジション科目*

*システム情報科学、経済学を学ぶ学生が選択可能

●専攻教育科目

●指導教員が必要と判断する他学府の授業科目

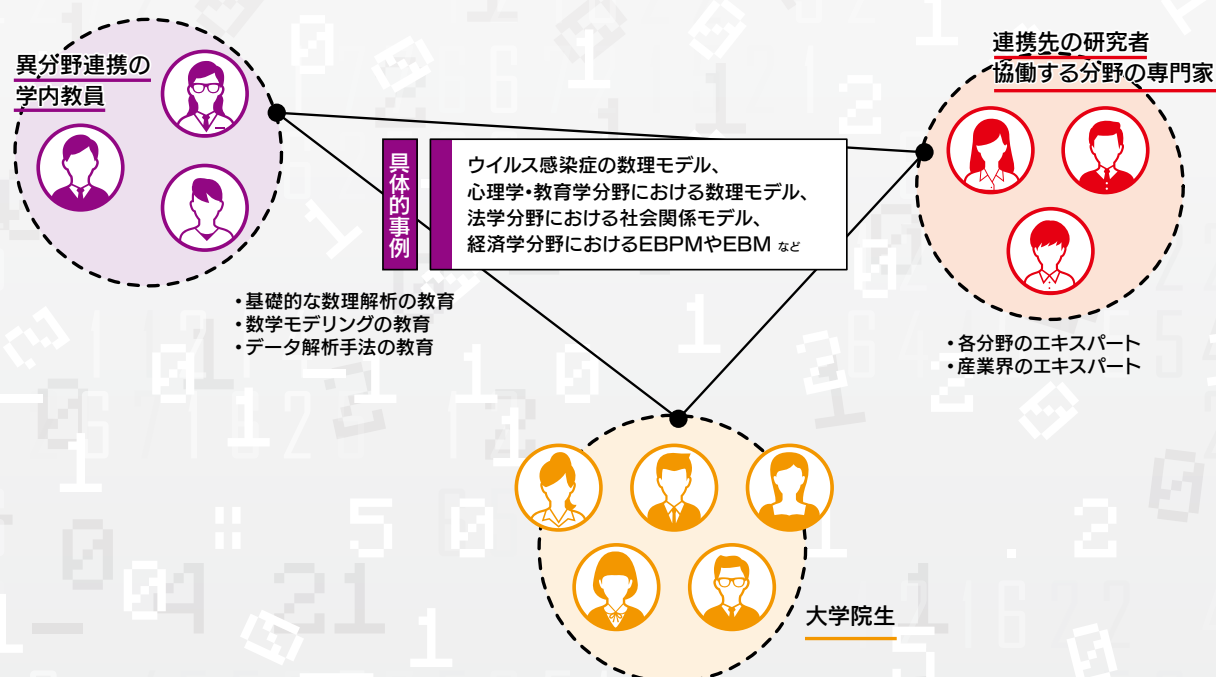
マス・フオア・イノベーション
プロフェッショナル

※角括弧内は必修単位数

マス・フオー・イノベーション プロフェSSIONナル

数学共創モデリング

学生それぞれの希望した異分野の研究室等で、学生や若手教員らと協働しつつ、その分野の基礎的事項を学びます。数学モデリングの側面から当該分野に貢献しつつ、共同研究・共著論文・学会発表等に取り組むことで、新たな価値を創造できる「共創力」を備えた人材の育成を目指します。





■ 共創力強化インターンシップ（国際／異分野／産学）

これらのインターンシップは、博士後期課程における選択必修とし、共創力強化を図ります。

国際：海外の大学・研究機関等において研究と研究開発（業務）の実習を実施します。

産学：産業界の協力の下、企業での研究に参加し、研究開発（業務）の実習を実施します。

異分野：異分野の研究拠点等に長期滞在し、数学モデリングの観点から貢献して共同研究を行います。

■ 主なインターンシップ先

アバディーン大学、アルフレード・レーニ数学研究所、カンザス州立大学、クィーンズ大学、西安電子科技大学、CMSC, Inc.、ソウル大学校、タリン工科大学、ドレスデン工科大学、バージニア大学、バレンシア大学、パリ・サクレ大学、ビーレフェルト大学、Huawei Technologies ラグランジュセンター、ラ・トロブ大学、リオデジャネイロ教皇庁カトリック大学、ルール大学ボーフム、レンヌ大学（IRMAR）、株式会社QunaSys、京セラ株式会社、株式会社シナプスイノベーション、株式会社STAR AI、株式会社タダノ、株式会社東芝 研究開発センター、なないろ生命株式会社、Nanofiber Quantum Technologies, Inc.、株式会社日立製作所 中央研究所、三菱重工業株式会社、株式会社村田製作所、佐賀大学大学院医学系研究科、東京科学大学、名城大学

■ 数学創発モデリング

学生を異分野の学内教員のもとに派遣し、当該学生がリバースメンターとなり、数学モデリングの観点から教員や他の学生をリードします。学生が数学モデリングで他分野の研究に貢献する経験を通して、本人のスキル向上と異分野への革新的な数学モデリングと解析手法をもたらすことを目標とします。

■ 学位・資格審査

■ 学位の名称 授与する学位に付記する専攻分野の名称は次のいずれかとします。

【博士前期課程】

修士（数理学）、修士（技術数理学）、修士（情報科学）、修士（理学）、
修士（工学）、修士（学術）、修士（経済学）

【博士後期課程】

博士（数理学）、博士（機能数理学）、博士（情報科学）、博士（理学）、
博士（工学）、博士（学術）、博士（経済学）

■ 資格審査 学位審査に加えて資格審査に合格する必要があります。

Prelims（博士前期課程修了時の進学資格審査）

口頭発表により、修士論文の学術的な達成度、課題解決マインドの熟成度を評価します。これとコースワークの全体評価による成績を総合して数学力、統計力、モデリング力、共創力の到達度を判断し、博士後期課程への進学を審査します。

Preliminary Thesis Exam（博士後期課程2年次終了時の資格審査）：「卓越論報」

研究の背景・過程・今後の戦略、数学共創実践に関する口頭発表、提出資料に基づき、創発力の到達度、及び博士論文に至る研究戦略を評価し、博士論文執筆資格を審査します。

Full Support System 充実したサポート体制

経済的支援

令和8年度現在

博士前期課程の学生

- 卓越奨励金 ▶ 年間54万円程度支給

博士後期課程の学生

学振DC、次世代研究者挑戦的研究プログラムと同等額を支給

- 卓越奨励金 ▶ 年間240万円程度支給 ■授業料 ▶ 半額免除

研究支援

令和8年度現在

- 旅費支援 ▶ 共創力強化インターンシップ、学会発表、調査研究、留学（短期プログラム）に伴う旅費を支援。
- 国際的活動支援 ▶ 無料で参加できる独自の英会話学習サポートや、海外留学支援制度など、国際的人材を育成するための充実した支援。
- その他 ▶ 研究に必要な機器等の貸与（パソコン、タブレット、書籍、その他）。

卓越社会人博士課程制度 日本初!

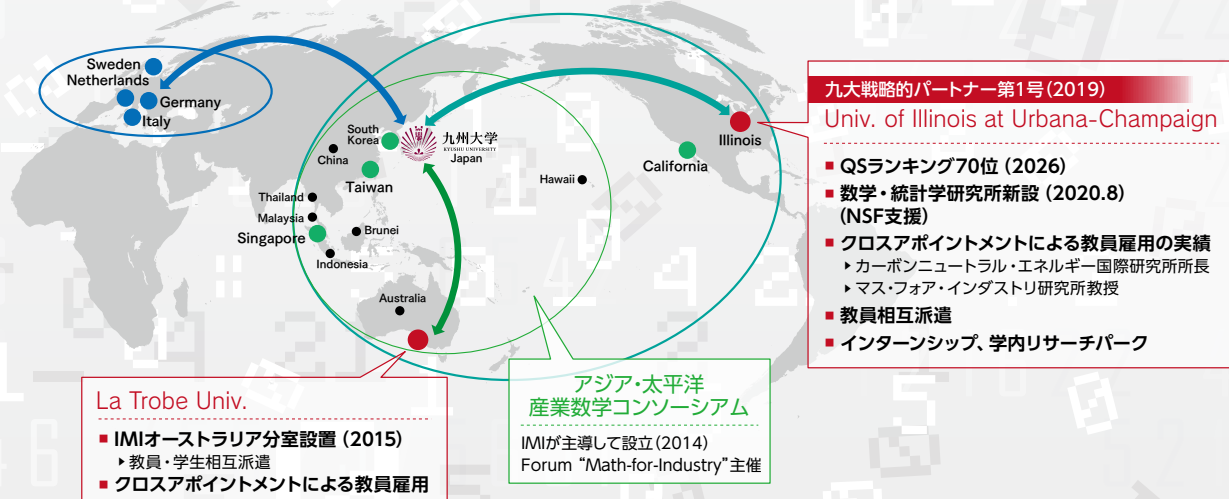
博士前期課程修了後、企業が採用、同時に社会人として博士後期課程に進学

- 経済的支援、キャリア構築、産学連携強化、大学・企業間人材往還促進等、複数の課題が一挙に解決。
- 富士通株式会社富士通研究所と協力、本連係学府で日本初の制度化。
- 毎年1〜2名に制度適用を目指す。



International Cooperation 国際連携

本学の戦略的パートナーであるイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（UIUC、米国）や本学マス・フォア・インダストリ研究所（IMI）が分室を置くラ・トロブ大学（オーストラリア）と連携し、教育の質保証と教員・学生交流を深化します。さらに、国際的産業数学研究ネットワークであるアジア・太平洋産業数学コンソーシアム（APCMfI）のようなりソースも活用して学生を海外へ派遣し、言語や文化の異なる国際的環境下で創発力を養成します。



Career Outcomes of Graduates

就職実績

益芯科SSB株式会社、NTT株式会社、大塚製薬株式会社、サグリ株式会社、株式会社ゾディアック、株式会社東芝、Huawei Technologies、株式会社福岡銀行、富士通株式会社、株式会社本田技術研究所、九州大学助教・ポスドク、東京理科大学助教、UCLouvain（ベルギー）ポスドク 等

English Training

独自の英会話学習サポート

本学府生の多くは、国際学会への参加や口頭発表、海外での研究活動を行います。その際に必要となる実践的な英語能力を身に付けるため、国際的活動支援の一環として、英語コミュニケーション力向上を目的とした少人数制の英語研修を実施しています。

研修内容

Ⅰ レッスン

グローバルに活躍できる人材育成を目指し、英語コミュニケーション力を向上することを目的とした実践的レッスン。

▶ Rhythm&Beat (R&B)

英語が聞こえる脳になる

1. 英語の音感覚と回路を身につけ、英語を英語のまま理解できるようにする
2. 今後の英語学習に役立つ自己学習法を習得する
3. 英語に対する苦手意識を払拭し、スピーキング力アップの土台を作る

▶ Crispy (Creative Speaking)

自分の言葉で伝える力をトレーニング

1. 英語で「言いたいことが言える」ようにするレッスン
2. 受講生の圧倒的発言時間の確保と的確なフィードバック
3. 言語機能別トレーニング

▶ Effective Presentation

明確なストラクチャー、インパクトのあるメッセージ構成、聴衆の心や考えを動かす

1. ストーミングのスキルを習得
2. プレゼンのフォーミング・スキルを習得
3. パフォーミング・スキルを体得



令和8年度
研修内容

Rhythm&Beat × 5回 + Createive Speaking × 7回
Effective Presentations × 12回

Ⅱ 口頭運用能力測定テスト (TSST)

TSSTとは、ペーパーテストでは測定できない、英語スピーキング能力を把握するためのテスト。

TSSTを通して、自分の考えを「その時」「その場で」瞬時に話し伝える能力を判定でき、研修期間の始めと終わりに実施することで、成長を確認することができる。

Multi Mentor System

マルチメンター制度

各メンターからなるマルチメンター制により複数教員等で学生の研究指導体制を構築します。
入口から出口まで手厚く学生をサポートする仕組みを通し、主に学生の創発力を養成します。

■ 研究メンター（指導教員）

講究科目を通して数学系分野で学生を中心に指導し、他のメンターを総括します。

■ 共創メンター

学生の数学系の主要研究分野とは異なる分野のプログラム担当者である教員。数学共創モデリング・数学創発モデリングを中心に教育研究活動を指導します。

■ グローバルメンター

海外研究機関の著名研究者。数学系分野もしくは他分野の学術的指導に加え、国際共創力強化インターンシップ、英語による教育研究・コミュニケーション指導等を担当します。

■ 海外の連携先大学

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校数学科
国立シンガポール大学数学科
ツェー・ベルリン研究所

カリフォルニア大学サンディエゴ校数学科
亜細亜大学数学科
トリノ工科大学

ラ・トロブ大学数学統計学科
台湾師範大学数学科
ルンド大学工学部

■ ヤングメンター

数学系・情報科学系・経済工学系のポスドク（学術研究員等）。数学共創モデリング・数学創発モデリングを中心にサポートするとともに、学生の学修や研究の進捗状況を把握します。

■ ヤングメンター紹介

片桐 宥

KATAGIRI Yu

研究テーマ▶

非アルキメデス解析、非アルキメデス関数解析、分布



私は数論、特に非アルキメデス解析を研究しています。現在、私は p 進 Fourier 理論に興味を持っています。この理論は p 進分布とあるリジッド解析関数の関係を記述するものであり、 p 進 L 関数の構成等に应用をもちます。博士または修士課程の間には様々な困難に直面することもあるかもしれません。そのようなときに、微力ながら皆さんの力になればと思います。

程 宇中

CHENG Yuzhong

研究テーマ▶

確率過程、数理統計



私は、確率微分方程式に基づく統計的推測を中心に研究しています。近年は、ハイブリッド・スイッチング拡散過程のエルゴード性やその統計的手法に関心を持ち、生物学への応用や深層学習を用いた解析にも取り組んでいます。私自身も本プログラムの修了生であり、異分野研究やインターンシップをはじめ、学生生活の中で気になることがあれば気軽に相談してください。皆さんの学びや研究がより充実したものとなるよう、少しでもお力になれば嬉しく思います。

■ 実務メンター

民間企業や研究機関、あるいは自治体における研究者等。必要に応じて産学・異分野共創力強化インターンシップを通して、産業界等の現場の観点から学生を指導します。

■ 国内の連携先機関（令和8年度現在）

統計数理研究所
NTT株式会社
マツダ株式会社

国立研究開発法人産業技術総合研究所
住友電気工業株式会社
糸島市

理化学研究所
富士通株式会社富士通研究所

マス・フォア・イノベーション連係学府長



廣島 文生

数理学研究院 教授
専門分野 ▶ 場の量子論



川野 秀一

数理学研究院 教授
専門分野 ▶ 統計科学



廣瀬 慧

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ 統計科学



吉良 知文

マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野 ▶ ソーシャル数理
▶ 動的最適化
▶ 確率最適化
▶ マルコフ決定過程



吉田 寛

数理学研究院 准教授
専門分野 ▶ 再生の数理

マス・フォア・イノベーション連係学府 副学府長



佐伯 修

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ トポロジー
▶ データ可視化



白井 朋之

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ 確率論



松江 要

マス・フォア・インダストリ研究所 /
カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 教授
専門分野 ▶ 力学系 ▶ 数値解析
▶ 微分方程式 ▶ 燃焼科学



斎藤 新悟

基幹教育院 准教授
専門分野 ▶ 多重ゼータ値
▶ 損害保険数理



池田 香凜

マス・フォア・インダストリ研究所 助教
専門分野 ▶ 整数論



穴井 宏和

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ 計算代数
▶ 人工知能



CESANA Pierluigi

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ PDE
▶ Calculus of Variations
▶ Materials Science



山口 晃広

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ 説明可能AI (XAI)
▶ 時系列データマイニング
▶ 機械学習



田上 大助

マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野 ▶ 数値解析



重富 尚太

マス・フォア・インダストリ研究所 助教
専門分野 ▶ 可積分系
▶ 離散微分幾何学
▶ 応用物理学
▶ テータ函数



石井 豊

数理学研究院 教授
専門分野 ▶ 力学系理論



辻井 正人

数理学研究院 教授
専門分野 ▶ 力学系理論
▶ エルゴード理論



脇 隼人

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ 最適化理論



手老 篤史

マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野 ▶ 数理モデリング



落合 啓之

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ 代数解析



富安 亮子

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ 応用代数



池松 泰彦

マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野 ▶ 暗号理論



新居 俊作

数理学研究院 准教授
専門分野 ▶ 力学系



梶原 健司

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ 離散微分幾何
▶ 可積分系



縫田 光司

マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野 ▶ 暗号理論
▶ 群論・組合せ論



GAINA Daniel Mircea

マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野 ▶ 数理論理学
▶ 圏論
▶ 形式手法



廣瀬 雅代

マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野 ▶ 統計科学

他学府

マス・フォア・イノベーション連係学府 副学府長



木須 隆暢

システム情報科学研究院 教授
専門分野 ▶ 超伝導理工学



荒川 豊

システム情報科学研究院 教授
専門分野 ▶ ユビキタス
コンピューティング



稲永 俊介

システム情報科学研究院 教授
専門分野 ▶ 文字列アルゴリズム
▶ データ構造
▶ 文字列組合せ論



竹内 純一

システム情報科学研究院 教授
専門分野 ▶ 機械学習
▶ 情報理論



木村 慧

システム情報科学研究院 准教授
専門分野 ▶ 数理最適化
▶ アルゴリズム



内田 誠一

システム情報科学研究院 教授
専門分野 ▶ 画像解析
▶ パターン認識
▶ 実データ解析



趙 建軍

システム情報科学研究院 教授
専門分野 ▶ ソフトウェア工学



孫 兆鴻

システム情報科学研究院 准教授
専門分野 ▶ 人工知能
▶ 計算経済学
▶ マッチング理論



小野 謙二

情報基盤研究開発センター 教授
専門分野 ▶ 数値流体力学
▶ 高性能計算
▶ 可視化



美添 一樹

情報基盤研究開発センター 教授
専門分野 ▶ 探索アルゴリズム
▶ 並列アルゴリズム
▶ 並列計算
▶ ゲームAI



東藤 大樹

システム情報科学研究院 准教授
専門分野 ▶ アルゴリズム的ゲーム理論
▶ マーケットデザイン



櫻井 幸一

システム情報科学研究院 教授
専門分野 ▶ 暗号
▶ サイバーセキュリティ



鎌滝 晋礼

システム情報科学研究院 准教授
専門分野 ▶ プラズマプロセス



山本 薫

システム情報科学研究院 准教授
専門分野 ▶ システム制御
▶ 群ロボット

久保田 浩行

生体防御医学研究所
システム生命科学府 教授
専門分野 ▶ システム生物学

佐竹 暁子

理学研究院
システム生命科学府 教授
専門分野 ▶ 数理生物学

岡安 崇史

農学研究院
生物資源環境科学府 教授
専門分野 ▶ 農業情報学
▶ 農業機械学
▶ 計算力学

丸山 修

芸術工学院
芸術工学府 教授
専門分野 ▶ 生物情報科学

竹村 俊彦

応用力学研究所
総合理工学府 教授
専門分野 ▶ 気象学
▶ 大気環境学

劉 維

工学研究院
工学府 教授
専門分野 ▶ 原子力熱流動
▶ 原子力安全

中島 直樹

九州大学病院
医学系学府 教授
専門分野 ▶ 医療情報学
▶ 糖尿病学
▶ 内科学

野下 浩司

理学研究院
システム生命科学府 助教
専門分野 ▶ 形態測定学
▶ 数理生物学
▶ 進化生物学

TA Viet Ton

農学研究院
生物資源環境科学府 准教授
専門分野 ▶ 確率微分・
偏微分方程式
▶ 数理生物学

伊藤 浩史

芸術工学院
芸術工学府 准教授
専門分野 ▶ 時間生物学

坂東 麻衣

工学研究院
工学府 教授
専門分野 ▶ アストロダイナミクス
▶ 制御工学

池田 達紀

工学研究院
工学府 准教授
専門分野 ▶ 物理探査学

他学府

マス・フォア・イノベーション連係学府 副学府長



瀧本 太郎

経済学研究院 教授
専門分野 ▶ 時系列分析
▶ 計量経済学



浦川 邦夫

経済学研究院 教授
専門分野 ▶ 応用経済学
▶ 福祉政策



大西 俊郎

経済学研究院 教授
専門分野 ▶ 統計科学



北原 知就

経済学研究院 教授
専門分野 ▶ 数理計画法
▶ オペレーションズ・
リサーチ



宮崎 毅

経済学研究院 教授
専門分野 ▶ 財政学
▶ 応用計量経済学



伊豆永 洋一

経済学研究院 准教授
専門分野 ▶ 数理最適化



小室 理恵

経済学研究院 准教授
専門分野 ▶ 応用数学



堀 宣昭

経済学研究院 准教授
専門分野 ▶ 理論経済学
▶ 公共経済学
▶ 政治経済学

Admission Information for Master's Course

入試情報(博士前期課程)

求める学生像

博士前期課程では、数学、情報科学、経済学などに学問的基盤を持つ学生で、学士課程レベルでの数学の基礎学力*1が備わり、さらに高度で広範な数学の知識獲得や数学を用いた自らの研究の推進に意欲をもつ学生を求めます。特に、高度に発達した数学理論の探究や数学モデリングを用いた応用研究に興味をいだくとともに、異分野や社会における課題にも挑戦し、新たな知見を獲得しようとする意欲のある学生を歓迎します。

*1 理系の学生を対象として教育が行われる「微分積分学」、「線形代数学」を初めとする、諸科学分野を学習する上で必須となる事項に関する基礎的な学術基盤や学力を指します。基本的には、理学部数学科等で身に付ける、現代数学の概念の理解を含む「数学力」「統計力」の習得を入学の要件としますが、習得されていない場合は、入学後にトランジション科目を受講できます。

出願資格

令和9年4月期入学の下表「連係協力学府」のいずれかの博士前期課程入学者選抜に合格した者。

※なお、本学府入学者選抜に不合格の場合でも、連係協力学府の合格が取り消されることはありません。

連係協力学府	数理学府	数理学専攻
	システム情報科学府	情報理工学専攻 電気電子工学専攻
	経済学府	経済工学専攻



授業風景

選抜方法等

連係協力学府における入学者選抜を受験の上、合格した志望者を対象に、出願理由書、推薦書等による書類審査及び口頭試問による選抜を行います。詳細については、本学府募集要項(11月頃公表)をご確認ください。

選抜の流れ(予定)



募集人員

12名

Admission Information for Doctoral Course

入試情報(博士後期課程)

求める学生像

博士後期課程では、数学、情報科学、経済学などに学問的基盤を持つ学生で、大学院レベルでの数学の学力および実践的応用力が備わり、さらに高度で広範な数学の知識獲得や数学を用いた自らの研究の推進に意欲をもつ学生を求めます。特に、高度に発達した数学理論の探究・構築や数学モデリングを用いた実践的応用の経験を持つとともに、異分野や社会における高度な課題にも挑戦し、新たな知見を獲得しようとする意欲のある学生を歓迎します。

出願資格

令和9年4月期入学の下表「連係協力学府」のいずれかの博士後期課程を受験予定の者。(本学府に選抜されるためには、連係協力学府の入学者選抜に合格していることが必須となります。)

※なお、本学府入学者選抜に不合格の場合でも、連係協力学府の合格が取り消されることはありません。

連係協力学府	数理学府	数理学専攻
	システム情報科学府	情報理工学専攻 電気電子工学専攻



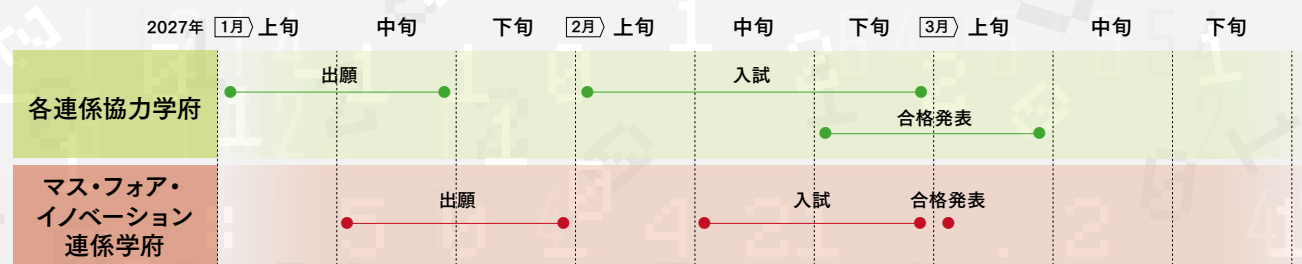
マス・フォア・イノベーション連係学府オリエンテーションの様子

選抜方法等

連係協力学府における入学者選抜を受験した志望者を対象に、出願理由書、推薦書等による書類審査及び口頭試問による選抜を行います。詳細については、本学府募集要項(11月頃公表)をご確認ください。

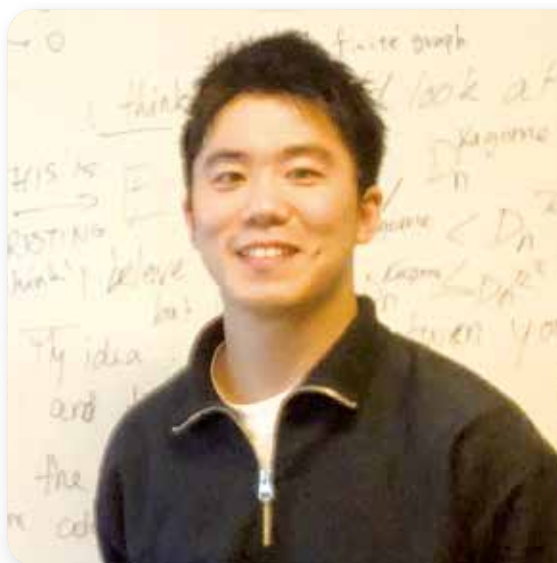
なお、本学府の博士前期課程からの進学者については、本選抜とは別の進学試験を受験する必要があります。

選抜の流れ(予定)



募集人員

14名(博士前期課程からの進学者に加えて、博士後期課程からの編入学者2名。)



数理学系
博士後期1年

柴田 修平

SHIBATA Shuhei

私は確率論を専攻し、特に過去の履歴に依存したランダムウォークの衝突問題や様々な格子の上での漸近挙動について研究しています。もともとは「研究している人がかっこいい」と感じたことがきっかけで博士課程に進学しました。連係学府の旅費支援制度のおかげで、現在は国内のみならず海外の先生や学生の方と学会や研究滞在を通して交流し、共同研究の機会にも恵まれています。こうした姿は学部時代には想像していなかったものであり、今後も連係学府の充実した支援を活用しながら、研究を通して様々な経験をしていけたらと考えています。

システム情報科学系
博士後期2年

高橋 ヴァンサン 隆亮

TAKAHASHI Vincent Ryusuke

修士課程のころから機械学習とその応用に興味を持ってきました。進学を考える途中で、自分が扱うモデルへの理解がまだ不十分と感じ、理論的にもっと深く学びたいと思い、連係学府を志望しました。現在は、情報理論的手法を用いたニューラルネットワークの敵対的攻撃に対するロバスト性向上について研究しています。また、他の研究室での研究を通して、異なる分野の知識を広げ、自分の勉強したことが他分野でも活かせると実感しました。今後は数学の知識も増やしながら、広い視野を持つ研究者になりたいと考えています。



経済学系
博士前期2年

赤星 輝季

AKAHOSHI Teruki



連係学府を選んだ理由は、支援制度の手厚さに魅力を感じたからです。経済的な支援に加え、電子機器の貸し出しや英会話授業、プログラミング学習のサポートなどが整っており、安心して学びに取り組める環境があります。また、「数学共創モデリング」では他学科の研究室に参加し、多様な分野に触れることができます。さらに、大学院教育フォーラムなどのイベントを通じて、所属学科だけでは得られない幅広い交流の機会もあります。こうした経験で得た多様な視点を研究に活かし、新たな価値の創出につなげていきたいと考えています。

Contact

お問い合わせ

九州大学理学部等事務部 マス・フォア・イノベーション卓越大学院事務支援室

〒819-0395 福岡市西区元岡744番地 ウェスト1号館4階A413号室

電話番号 ▶ 092-802-4355 メールアドレス ▶ gpmioffice@jimu.kyushu-u.ac.jp

Access

アクセス



- **博多駅からの案内** 所要時間 約45分～60分
地下鉄で行く (博多 → 九大学研都市 → 九大理学部前) 西鉄バスで行く (博多駅前A → 九大理学部前)
- **福岡空港からの案内** 所要時間 約50分
地下鉄で行く (福岡空港 → 九大学研都市 → 九大理学部前)
- **天神からの案内** 所要時間 約40分～45分
地下鉄で行く (天神 → 九大学研都市 → 九大理学部前) 西鉄バスで行く (天神ソラリアステージ前 → 九大理学部前)



J G M I
Joint Graduate School of
Mathematics for Innovation

詳しい情報は、
下記ホームページをご覧ください。

<https://www.jgmi.kyushu-u.ac.jp/>



